

正親学区

防災まちづくり計画

地域の絆を深め、みんなでつくる
安心・安全、住みよきまち 正親

正親学区 防災まちづくり委員会

本計画は、押印のうえ、新しい役員の方に引き継いでください。

2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印



【目 次】

1. 『防災まちづくり計画』とは	・・・ 1
(1) 計画の背景と目的	
(2) 計画の役割	
(3) 計画策定までの取組	
(4) これまでに取り組んできた「すぐに取り組む具体的な対策」	
2. 正親学区の概要	・・・ 12
(1) 市街地の成り立ち	
(2) 現状と課題	
(3) 市街地の特性図（軸とエリアの設定）	
3. 「防災まちづくり」の目標	・・・ 21
(1) 目指すまちの将来像	
(2) 防災まちづくりの基本方針	
4. エリア別計画	・・・ 28
(1) エリア別計画	
5. 計画の実現に向けて	・・・ 32
(1) 基本的な進め方	
(2) 3年間の取組イメージ	
(3) 学区の取組と連携した年間の取組イメージ	
(4) 主体ごとの役割と具体的な取組	

1. 『防災まちづくり計画』とは

(1) 計画の背景と目的

正親学区は、千本通や中立売通、智恵光院通などの京都市の広域的な幹線道路が通過し、「聚楽第」跡地ゆかりの町名や通り名のもと、一条通や浄福寺通などによって形成された市街地の中に、町家やトンネル路地などが残っている京都らしい町並みや風景を有しています。

その一方で、幅員の狭い路地や、行き止まりの路地が多く、古い木造住宅が密集する地区もみられ、大地震による建物等の倒壊や、火災による広範囲への延焼などの被害が予想されます。

こうしたことから、正親学区では、災害につよい安心・安全に住み続けられるまちを目指し、平成27年度から「防災まちづくり」に取り組み、緊急避難扉の設置による2方向避難経路の確保や、袋路始端部の整備などの「すぐに取り組む具体的な対策」を着実に進めるとともに、住民のみなさんと「防災まちあるき」や「防災まちづくり意見交換会」など様々な機会、想いを共有してきました。

『防災まちづくり計画』は、これまで住民のみなさんと共有してきた想いを大切に、災害の被害から人命や財産を守り、将来にわたって安心・安全に住み続けられるよう、学区全体で継続して「防災まちづくり」に取り組んでいくための考え方や具体的な取組等をまとめたものです。

(2) 計画の役割

『防災まちづくり計画』は、住民が、地域の各種団体や事業者、行政などと一緒になり、安心・安全なまちをつくりあげるために以下の役割を有しています。

①実現すべき目指すまちの将来像を明らかにする役割

今後の「防災まちづくり」の取組に向けて、誰にとっても分かりやすい表現で、実現すべき目指すまちの将来像や「防災まちづくり」の基本方針、具体的な「防災まちづくり」対策等を明らかにします。

②具体的な「防災まちづくり」対策を進める指針とする役割

地域で把握・共有した防災上の課題解決に向けて、地域の特性を踏まえた具体的な「防災まちづくり」対策を進めていく際の指針とします。

③住民や事業者の理解、合意形成を図る役割

目指すまちの将来像や「防災まちづくり」の基本方針を、住民、事業者、行政が共通の目標として共有することにより、「防災まちづくり」に対する理解を深め、「防災まちづくり」の取組全般に対する合意形成や相互の調整を容易にします。

(3) 計画策定までの取組

★1年目の主な取組（平成27年度）

年月日	会議名等（青：住民のみなさんに参加頂いた取組、ピンク：すぐに取り組む具体的な対策）
平成27年7月1日(水)	団体長会議
平成27年8月4日(火)	第2回防災まちづくり委員会
平成27年8月29日(土)	児童ボーンでの活動PR
平成27年9月10日(木)	第4回防災まちづくり委員会
平成27年10月24日(土)	第1回防災まちあるき（ブロック1、5、6）
平成27年11月14日(土)	第2回防災まちあるき（ブロック2、3、4）
平成27年12月13日(日)	防災訓練
平成27年12月25日(金)	防災訓練コア会議(第1回)
平成28年1月8日(金)	防災訓練コア会議(第2回)
平成28年1月15日(金)	第5回防災まちづくり委員会
平成28年2月2日(火)	防災まちづくり意見交換会(ブロック1、5、6)
平成28年2月9日(火)	防災まちづくり意見交換会(ブロック2、3、4)
平成28年3月1日(火)	第6回防災まちづくり委員会
平成28年3月	すぐに取り組む具体的な対策（袋路への緊急避難扉の設置：P9参照）



『防災まちあるき』

- ・学区を6ブロックに分け、2日間で住民のみなさんと一緒に各路地の状況や地域の防災上の課題を確認し、共有しました。



『防災まちづくり』意見交換会

- ・『防災まちあるき』を振り返りながら、まちの現状・課題、課題を解決するための具体的な対策について意見交換を行いました。

主なご意見

- ・一条通には京町家が残っている。
- ・古い木造住宅や管理が不十分な空き家が多い。
- ・幅の狭い袋路が入り組んでいる。
- ・古くて高いブロック塀がある。
- ・使用されていない井戸が多い。
- ・路地入口や密集地では家の耐震化が重要。
- ・軸となる道の耐震化が必要。
- ・普段から路地を適正管理することが大切。
- ・「地域の集合場所」の変更を検討。
- ・イズミヤやフレスコとの協力体制づくり。

★2年目の主な取組（平成28年度）

年月日	会議名等（青：住民のみなさんに参加頂いた取組、ピンク：すぐに取り組む具体的な対策）
平成28年4月14日(木)	第7回防災まちづくり委員会
平成28年5月28日(土)	安否確認訓練
平成28年5月31日(火)	第8回防災まちづくり委員会
平成28年6月23日(木)	第1回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成28年6月30日(木)	第2回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成28年7月7日(木)	第3回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成28年8月2日(火)	第9回防災まちづくり委員会
平成28年9月	すぐに取り組む具体的な対策（老朽木造建築物の除却、袋路始端部の整備：P10 参照）
平成28年10月13日(木)	第10回防災まちづくり委員会
平成28年11月26日(土)	すまいの耐震大作戦 2016（一条通、浄福寺通、上長者町通）
平成29年1月28日(土)	第11回防災まちづくり委員会
平成29年3月	すぐに取り組む具体的な対策（古いブロック塀の改修：P11 参照）
平成29年3月16日(木)	第12回防災まちづくり委員会
平成29年3月21日(火)	住まい（空き家）の講座（空き家化の予防）



『防災まちづくりセミナー・意見交換会』

・熊本地震の被害状況の報告や京都市の耐震助成制度を確認し、「災害につよいまちをつくるために取り組むべきこと」や「目指す将来のまちのイメージ」などについて、町内ごとにグループに分かれて意見交換を行いました。

主なご意見（●：取組のアイデア、★：目指す将来のまちのイメージ）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ●家の中の安全対策をする。 | ★一人ひとりの顔が見えるまち。 |
| ●耐震化や防火対策を学区全体に広げる。 | ★町内の交流が活発なまち。 |
| ●空き家対策の勉強会を行う。 | ★子どもの声が聞こえるまち。 |
| ●建替え時のセットバックをしっかりと行う。 | ★若者が住みたいと思うまち。 |
| ●避難経路の安全性を確認する。 | ★学区内の主要な道は広がってほしい。 |
| ●みんなで「地域の集合場所」を共有する。 | ★今までどおり安全で暮らしやすい環境。 |
| ●日頃のコミュニケーションを大事にする。 | ★みんなが笑顔であいさつできるまち。 |
| ●災害時に備え、周辺店舗等と協定を結ぶ。 | ★京都の良さを残す。 |
| ●防災意識を高める取組をする。 | ★みんなが安心して暮らせるまち。 |



『すまいの耐震大作戦 2016』

- ・防災上重要な道となる一条通、浄福寺通、上長者町通の沿道の建物（昭和 56 年以前）を対象として、地域と行政、専門家が一緒に各お宅を訪問し、耐震診断等を直接呼び掛けました。

取組の結果

- ・全体で約 **90** 軒のお宅に、耐震診断等の呼び掛けや、耐震化の重要性に関する意識啓発を行うことができました。

★訪問軒数（ポスティング含む）

- ・一条通 ： **21** 軒
- ・浄福寺通 ： **21** 軒
- ・上長者町通： **47** 軒

約 90 軒のうち、5 軒から
実際に耐震診断の申請
をいただきました！



『住まい（空き家）の講座』

- ・亀楽会で 75 歳以上の方を対象に、司法書士による空き家化の予防、「家」に関するお悩み相談会を実施しました。

『地域の集合場所の見直し』

- ・3つの町内会で、「地域の集合場所」を、より安全な場所へ見直しました。

★ 3年目の主な取組（平成 29 年度）

年月日	会議名等（青：住民のみなさんに参加頂いた取組、ピンク：すぐに取り組む具体的な対策）
平成 29 年 4 月 21 日(金)	第 13 回防災まちづくり委員会
平成 29 年 5 月 26 日(金)	第 14 回防災まちづくり委員会
平成 29 年 6 月 3 日(土)	安否確認訓練での活動 P R
平成 29 年 6 月 15 日(木)	第 1 回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成 29 年 6 月 22 日(木)	第 2 回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成 29 年 6 月 29 日(木)	第 3 回防災まちづくりセミナー・意見交換会
平成 29 年 7 月 21 日(金)	第 15 回防災まちづくり委員会
平成 29 年 8 月 26 日(土)	児童ボーンでの活動 P R
平成 29 年 9 月 28 日(木)	第 16 回防災まちづくり委員会
平成 29 年 10 月 8 日(日)	区民運動会での活動 P R
平成 29 年 10 月 14 日(土)	すまいの耐震大作戦 2017
平成 29 年 11 月 12 日(日)	総合防災訓練での活動 P R
平成 29 年 11 月 22 日(水)	第 17 回防災まちづくり委員会
平成 30 年 1 月 24 日(水)	第 18 回防災まちづくり委員会
平成 30 年 2 月 13 日(火)	第 1 回防災まちづくり意見交換会
平成 30 年 2 月 20 日(火)	第 2 回防災まちづくり意見交換会
平成 30 年 2 月 27 日(火)	第 3 回防災まちづくり意見交換会
平成 30 年 3 月 20 日(火)	第 19 回防災まちづくり委員会



『安否確認訓練での活動 P R』

- ・防災まちづくりコーナーを設置し、活動 P R とともに、防災まちづくりの目標について意見をもらいました。
- ・子どもたちとは、紙工作で住宅の耐震に関する学習などを行いました。

主なご意見

【目指すまちの将来像について】

- ・京都らしい風景を残しつつ、将来へ向けて引き継いでいけると良い。
- ・孫がいるので子どもが安心できることが大事。
- ・絆、つながりが大事だが、不足している。
- ・人のつながりが最近は足りないと感じる。

【防災まちづくりの基本方針について】

- ・まず自分ができることから安全対策をする。
- ・空き家対策は学区と町内会の連携が大事。
- ・袋路は火事が起こると逃げられないと思う。
- ・避難場所がココ！とわかるものがほしい。
- ・井戸の整備を行う。
- ・災害が起きる前から、コミュニケーションを取っておくべきだと思う。



『防災まちづくりセミナー・意見交換会』

- ・災害につよい「いえ・みち・まち」の話として、京都市の各種助成制度の紹介や道の仕組み、住宅の耐震化等に関するセミナーを開催するとともに、「防災まちづくりの目標」や「町内での具体的な対策」などについて、町内ごとにグループに分かれて意見交換を行いました。

主なご意見

【目指すまちの将来像について】

- ★「安心・安全」という言葉があり、良いと思う。
- ★他地区から引っ越してきたばかりだが、正親学区は防災などの取組が活発で良い。
- ★将来像をどのように実現していくかが重要である。

【町内で取り組む基本方針と具体的な対策について】

- いえ**
 - ・人命（自分の身）を守ることが一番大事。すぐに対策できることから取り組む。
 - ・学校で災害時の避難方法に関する教育など必要。
 - ・自分の家から耐震・防火改修をしていく。
 - ・ゲストハウスとして活用されるよりも、空き家を活用して若者に住んでほしい。
 - ・空き家の適正管理、所有者の把握と所有者への啓発を行う。
- みち**
 - ・災害時の避難経路については、町内全員が考える必要がある。
 - ・駐輪などが多いため、適正管理が大事。
 - ・大きな通りに繋がる路地の幅員はしっかりと確保したい。
 - ・家が古く、密集している箇所はセットバックや耐震化や防火対策が重要。
 - ・セットバックした箇所は、将来的には、道路状に整備できると良い。
- まち**
 - ・火災が恐いため、防火対策と合わせて防災ひろばの整備も進める。
 - ・「地域の集合場所」は地域で共有する。看板などがあると良い。
 - ・身近な地域の防災環境の整備については、できるところから対策していく。
 - ・路地を大切にしたい保全・再生を検討していきたい。
- コミュニティ**
 - ・防災意識がまだ低いため、こうした活動を継続して取り組んでいく。
 - ・町内会単位や、個人でも災害時の備えは必要。
 - ・若い人がいざというときに力になってくれると良い。
 - ・町内会長や防災部長は毎年代わるため、情報等の引継ぎが大切。



『すまいの耐震大作戦 2017』

- ・平成 28 年度に引き続き、学区内の避難を支える大きな道路に繋がる道である土屋町通、仁和寺街道、裏門通、日暮通の沿道の建物（昭和 56 年以前）を対象として、地域と行政、専門家が一緒に各お宅を訪問し、耐震診断等を直接呼び掛けました。

取組の結果

- ・全体で約 **70 軒**のお宅に、耐震診断等の呼び掛けや、耐震化の重要性に関する意識啓発を行うことができました。

★訪問軒数（ポスティング含む）

- ・土屋町通、仁和寺街道：**45 軒**
- ・裏門通、日暮通：**24 軒**

約 70 軒のうち、2 軒から
実際に耐震診断の申請
をいただきました！
今後も継続して取り組んで
いきましょう！



『区民運動会での活動 PR』

- ・一人ひとりや町内会で取り組むべきことや「防災まちづくり」の進め方についてシールを貼ってご意見をいただきました。



『総合防災訓練での活動 PR』

- ・一人ひとりが取り組む「家の中の安全対策」、「地震に強い家づくり」について専門家より紹介し、「防災まちづくり」に関するアンケートを行いました。

目指すまちの将来像を実現するために大切にしたい正親学区の良いところ

- ★町内での各世帯の結びつきが強い！
- ★人と人とのつながりが強い！
- ★お年寄りが子どもたちを大切にしてくれてありがたい！
- ★地域のコミュニティが深く、町内会がしっかりしている！
- ★人情がある！
- ★古い町並みが美しく保たれている！

主なご意見（取組のアイデア）

- ・家具の転倒防止グッズの紹介や斡旋。
- ・常時管理者がいない民泊への対応。
- ・路地の入口に袋路か抜け路地かを表示。
- ・各町内に避難経路図を作成。
- ・町内の消火器などの設置場所を共有。
- ・メール等での地域ネットワークを構築。
- ・家庭内での防災に関する情報共有。
- ・学区内の事業者と災害時の物資提供等の協定を締結。



『防災まちづくり意見交換会』

- ・『防災まちづくり計画』の策定に向けて、これまでの取組を通じて住民のみなさんから頂いたご意見やアイデア等を踏まえて整理した『防災まちづくり計画（案）』や、計画の実現に向けた具体的な取組の進め方や役割分担等について確認・意見交換を行いました。

主なご意見・アイデア

【エリア別計画について】

- ・空き家の把握は、町内会長同士が連携し、情報を共有する。
- ・学区の軸となる道は、行政と連携してセットバックに関する取り決めや規制を掛ける等の対策を行いながら、幅員を広げたい。
- ・辰巳公園などの拠点となる場所の防災機能を高める。
- ・平日日中の災害に備える対策と併せて、町内の高齢者を把握する。

【計画の実現に向けた具体的な取組の進め方、役割分担について】

- いえ**
 - ・「正親だより」で家の中の安全対策の意識啓発をする。
 - ・回覧板などを用いて、空き家等対策について目立つように PR する。
- みち**
 - ・総会や地蔵盆で、耐震助成等の PR や防災上危険な場所を確認し、学区で共有する。
 - ・通り抜けの路地か袋路（行き止まりの路地）かを京都市共通のイラストで表示する。
 - ・回覧板に避難場所や避難経路を掲載して共有する。
- まち**
 - ・学区として防火バケツの設置を呼び掛ける。
 - ・小学校と連携し、各町内会の防火バケツに集合場所のステッカーを貼る。
 - ・広報板、バス停など、人が溜まる場所に防災情報を掲載する。
 - ・学区のモデルとなる路地の整備に取り組む。
- コミュニティ**
 - ・町内会で災害時に必要な物をリスト化する。
 - ・要介護者や、ペットがいる世帯の避難などに関するセミナーを開催する。
 - ・「正親だより」などで、町内会加入の案内をする。
 - ・子どもや高齢者などが優先的に避難できる体制づくりをする。
 - ・区民運動会で防災ゲームの実施による意識啓発をする。
 - ・町内ごとに「防災まちづくり」の目標を立てれば、住民も意識的に取り組める。

(4) これまでに取り組んできた「すぐに取り組む具体的な対策」

正親学区では、住民のみなさんに広く「防災まちづくり」が浸透し、『防災まちづくり計画』が認知されるよう、平成 27 年度の「防災まちあるき」や「意見交換会」、平成 28 年度の「防災まちづくりセミナー・意見交換会」等を行ってきました。そこでいただいたご意見を踏まえて、住民のみなさんと防災まちづくり委員会が連携して、「すぐに取り組む具体的な対策」を着実に進めてきました。これまでに、袋路の 2 方向避難経路の確保など、全 5 箇所以下で以下の対策を実施してきました。

具体的な対策を進めるに当たっては、関係者の協力をいただき、京都市の助成制度を活用しながら、まちの安全性を高める対策を実施しています。

今後も、これまでの成功事例を参考にしながら、住民のみなさんと防災まちづくり委員会が連携して、災害につよいまちに向けた具体的な対策を進めていきます。

●袋路（行き止まりの路地）への緊急避難扉の設置

災害時に、袋路の入口が建物の倒壊等によって塞がれ、避難や救助ができなくなるおそれがあるため、住民のみなさんとの協力のもと、東西俵屋本町、加賀屋町で袋路の奥から安全に避難できる緊急避難扉を設置しました。



設置前 (H27.6)



設置後 (H28.3)

東西俵屋本町



設置前 (H27.6)



設置後 (H28.3)

加賀屋町

活用した市の助成制度

緊急避難経路整備事業

内 容：袋路等の奥から安全な避難経路を確保する工事費を補助（避難扉の設置等）

●老朽木造建築物の除却

地震が起こった時に建物が倒壊したり、火災時に延焼のおそれがあるため、所有者のご理解・ご協力を得て、山里町で袋路始端部の老朽木造建築物を除却しました。



山里町

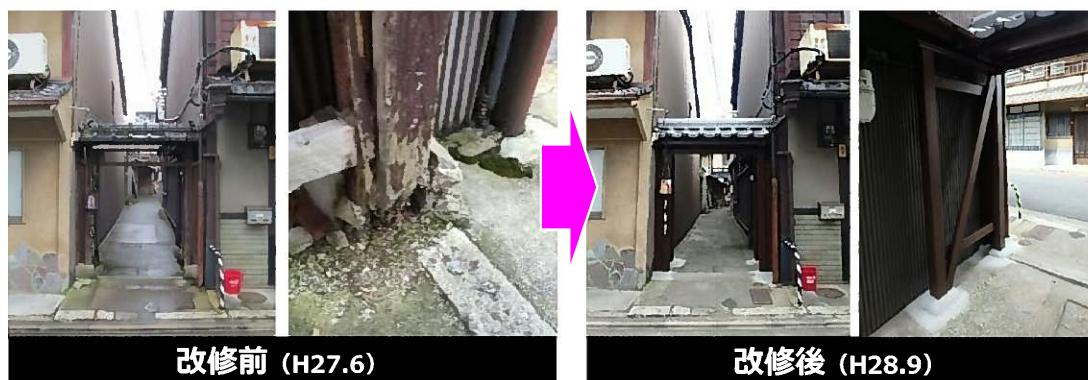
活用した市の助成制度

老朽木造建築物除却事業

内 容：古くなった木造建築物を除却する工事費を補助

●袋路（行き止まりの路地）始端部の整備

袋路は、災害時に入口部の古い建物や工作物等の倒壊によって、避難や救助に支障をきたすおそれがあるため、住民のみなさんの協力のもと、伊勢殿構町で、袋路始端部の表札門の安全性を高める改修工事を行いました。



伊勢殿構町

活用した市の助成制度

袋路等始端部整備事業

内 容：袋路等の入口部において、避難上支障となる工作物等の撤去や改修など、避難安全性を向上させる工事費を補助

●古いブロック塀の改修

幅員の狭い路地に面する古いブロック塀などは、災害時の倒壊により避難や救助に支障をきたすおそれがあるため、住民のみなさんの協力のもと、泰童町で路地に面する古いブロック塀の改修工事を行いました。



泰童町

活用した市の助成制度

危険ブロック塀等改善事業

内 容：古いブロック塀等の除却，塀や生垣等を新設する
工事費を補助